

北海道

4月号

かわばたの風

自宅待機から学びについて

管理者 太田 さとみ

季節が冬から春に変わり、道端の水仙やチューリップが今を盛りに咲き、過ごし易い季節になりました。新型コロナウイルス感染症で、北海道は、全国に先駆けて出した「緊急事態宣言」が功を奏しました。しかし、四月に入り第二波による感染拡大が起こり、札幌市や千歳市など都市部の感染者を含め全道で、日々の感染者数が二桁台となり、介護施設や、障がい者施設などにも感染者が出ております。改めて「命を守る」ことの趣旨のもと、事業所を休業する事になりました。

いわきから自立したいと強い意志を持って一人で北海道に来た利用者さんを訪問すると、通常通りの時間で生活しており、マスクをかけ、新しい料理にチャレンジしようと毎日報道を見て彼女が、「小学生が自宅で自粛しているのに、大人がパチンコ店に並ぶのは、おかしいのではないか？」と疑問を投げかけられました。返答に四苦八苦しましたが、一人で北海道に来て様々な体験を通してながら、彼女の自立をしようとすると目標に少しずつ歩み出している姿を見ました。

新型コロナウイルス感染の話題が毎日情報として入ってくることに慣れてきてしまっていて、緊張感が緩んでしまいがちになりますが、改めて自分が感染源にならないよう、行動の自粛と、感染防止に努めたいと思いました。少しでも早い収束の為に、自分が出発することに最善を尽くす心がけをしたいものです。

5月の予定

- 2日 工賃支給日
- 11日 避難訓練 (地震)

社会体験学習は現在自粛中です。

新型コロナウイルス感染症防止に伴う自宅待機の対応について

一人暮らしの利用者さんが不安にならないように十分に説明をし、電話や訪問を通じて支援をしています。

- ① 毎日の体温・体調・行動の確認
 - ② 家庭でもやってほしいことは、
 - ・ こまめに手を洗うこと
 - ・ 空気の入れ替えをすること
 - ・ 不要不急の外出を避けること
 - ・ ラジオ体操、ストレッチを行うこと
 - ③ 規則正しい生活を送ること
- 体調や生活リズムの維持、管理のために、家庭における生活スタイルのアドバイスを行って参ります。

自粛要請解除後に、何事もなく事業所再開を皆が元気に迎えられるようにしましう。

サービス管理責任者 加藤安子

風だより

四月に入り、事業所まわりの桜の蕾はようやくく膨らみ始めました。人も草花も雪解けを待ちわびたように動き始め、雲雀が空高く舞い上がりさえずります。雪の下で押しつぶされていた芝桜が少し色付き始め、新型コロナウイルスのため外出自粛中ではありますが、自宅から一歩外へ出ると肌で春を感じます。

▼今は我慢の時、春を感じながら、ただ、じっと事態の収束を待ちます。